



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月9日  
東

上場会社名 武蔵野興業株式会社 上場取引所  
 コード番号 9635 URL <https://www.musashino-k.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河野 義勝  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 市川 幹雄 (TEL) 03-3352-1439  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	949	△2.1	1	△96.5	△19	—	△29	—
2022年3月期第3四半期	969	6.6	50	0.5	25	△58.1	11	△32.1

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 △29百万円(—%) 2022年3月期第3四半期 11百万円(△37.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	△28.61	—
2022年3月期第3四半期	10.90	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	5,882	3,505	59.6
2022年3月期	5,989	3,535	59.0

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 3,505百万円 2022年3月期 3,535百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,365	5.8	45	△43.0	18	△71.4	0	—	0.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	1,050,000株	2022年3月期	1,050,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	3,619株	2022年3月期	3,599株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	1,046,387株	2022年3月期3Q	1,046,417株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の基準に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料のP3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9
(収益認識関係)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症の行動制限緩和など経済活動の正常化に向けた動きが徐々に見られたものの、新型コロナウイルス感染症の再拡大、ウクライナ情勢の長期化や円安などによる物価高騰、不透明な海外景気動向などを背景に、景気の先行きは依然として不透明な状況で推移しております。

このような状況のもと、当社グループは、引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を講じながら、各事業において業績の向上に努めてまいりました。その結果、全体として売上高は9億4千9百万円（前年同期比2.1%減）、営業利益は1百万円（前年同期比96.5%減）、経常損失は1千9百万円（-）、親会社株主に帰属する四半期純損失は2千9百万円（-）となりました。

当第3四半期連結累計期間のセグメント情報ごとの業績の状況は以下の通りであります。

#### (映画事業部門)

映画興行事業におきましては、「武蔵野館」では、『七人樂隊』『シグナチャー～日本を世界の銘醸地に～』、また「シネマカリテ」では、『PIG/ピッグ』『クリエイション・ストーリーズ～世界の音楽シーンを塗り替えた男～』などを上映いたしました。武蔵野館は12月公開『マッドゴッド』『そばかす』、シネマカリテは11月公開『ランディ・ローズ』の動員が好調に推移しました。売上高は、前年実績を上回ったものの、依然として新型コロナウイルス感染症拡大前の水準には至らず、予想を下回る結果となりました。映画配給関連事業におきましては、当社連結子会社の配給作品『七人樂隊』（香港映画）、『狼 ラストスタントマン』（邦画）を公開し、『七人樂隊』は多くの劇場で上映されました。また『淪落の人』は、ホール上映会が実施されました。

その結果、部門全体の売上高は2億9千9百万円（前年同期比5.6%増）、セグメント損失は、4千8百万円（前年同期は5千1百万円のセグメント損失）となりました。

#### (不動産事業部門)

賃貸部門におきましては、依然として新型コロナウイルス感染症拡大の影響が続くなか、テナント収入の減少や、主要テナントビルの設備の更新等に係る減価償却費の増加などにより、当第3四半期連結累計期間における営業成績は前年同期を下回りました。販売部門におきましては、景気の動向に注意を払いながら取引の機会を模索しておりますが、具体的な営業活動の成果を得るには至りませんでした。

その結果、部門全体の売上高は4億1千5百万円（前年同期比3.5%減）、セグメント利益は2億4千万円（前年同期比5.3%減）となりました。

#### (自動車教習事業部門)

卒業シーズンを控えた高校生・大学生を中心に、新規教習生の確保に向けた営業活動を展開しました。前期は、新型コロナウイルスの感染拡大で教習生が減少した反動もあり全車種にわたって増加しましたが、今期は平常の状況に戻ったため前年同期を下回りました。

その結果、部門全体の売上高は2億2千5百万円（前年同期比8.9%減）、セグメント利益は3千3百万円（前年同期比32.0%減）となりました。

#### (商事事業部門)

当該事業部門の主軸である東京都目黒区において経営委託している飲食店につきましては、新型コロナウイルス感染症の行動制限緩和など、経済活動の正常化に向けた動きもあり、営業成績は徐々に回復しました。部門全体の売上高は5百万円、（前年同期比8.7%増）セグメント利益は5百万円（前年同期比8.7%増）となりました。

#### (その他)

主として自販機手数料であります。部門全体の売上高は4百万円（前年同期比10.8%増）、セグメント利益は3百万円（前年同期比9.2%増）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ①財政状態の分析

##### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、賃貸ビルの改修工事による固定資産の増加があったものの、未払債務及び有利子負債の返済等による現金及び預金の減少があったことなどから、前連結会計年度末に比べ1億6百万円減

の58億8千2百万円となりました。

(負債)

負債合計は、長期借入金の返済等による減少があったことなどから、前連結会計年度末に比べ7千7百万円減の23億7千7百万円となりました。

(純資産)

親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により利益剰余金が減少したことなどから、前連結会計年度末に比べ2千9百万円減の35億5百万円となりました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の通期連結業績予測につきましては、直近の業績等を勘案し、2022年5月12日に公表しました業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日(2023年2月9日)に公表いたしました「連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	759,248	697,469
売掛金	43,325	42,056
棚卸資産	2,123	3,093
その他	54,914	56,767
貸倒引当金	△25	△23
流動資産合計	859,585	799,364
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	506,309	488,059
機械装置及び運搬具(純額)	6,603	3,984
工具、器具及び備品(純額)	18,840	18,217
土地	3,904,167	3,904,167
リース資産(純額)	7,243	5,952
有形固定資産合計	4,443,165	4,420,380
無形固定資産		
借地権	67,260	67,260
その他	11,186	9,733
無形固定資産合計	78,446	76,993
投資その他の資産		
投資有価証券	460,953	438,924
繰延税金資産	21,920	22,750
敷金及び保証金	88,646	88,646
その他	40,734	39,885
貸倒引当金	△3,843	△4,053
投資その他の資産合計	608,411	586,153
固定資産合計	5,130,022	5,083,528
資産合計	5,989,608	5,882,892

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	50,960	50,030
短期借入金	57,660	57,660
リース債務	7,155	4,230
未払法人税等	16,525	3,752
賞与引当金	8,775	12,132
その他	182,591	166,888
流動負債合計	323,669	294,693
固定負債		
長期借入金	340,636	301,779
リース債務	5,811	3,550
退職給付に係る負債	64,531	62,590
役員退職慰労引当金	8,906	8,906
長期預り敷金	619,039	613,839
再評価に係る繰延税金負債	1,082,196	1,082,196
その他	9,291	9,466
固定負債合計	2,130,412	2,082,327
負債合計	2,454,081	2,377,021
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,004,500	1,004,500
利益剰余金	85,769	55,832
自己株式	△8,667	△8,711
株主資本合計	1,081,602	1,051,621
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,840	2,166
土地再評価差額金	2,452,083	2,452,083
その他の包括利益累計額合計	2,453,924	2,454,250
純資産合計	3,535,526	3,505,871
負債純資産合計	5,989,608	5,882,892

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	969,328	949,144
売上原価	460,568	474,219
売上総利益	508,759	474,924
販売費及び一般管理費	457,938	473,153
営業利益	50,821	1,771
営業外収益		
受取利息及び配当金	169	817
その他	269	2,707
営業外収益合計	438	3,524
営業外費用		
支払利息	2,080	1,458
持分法による投資損失	22,925	23,375
その他	400	134
営業外費用合計	25,406	24,969
経常利益又は経常損失(△)	25,853	△19,674
特別利益		
新型コロナウイルス感染症による雇用調整助成金等	15,383	6,022
特別利益合計	15,383	6,022
特別損失		
臨時休業による損失	6,954	-
環境対策費	3,234	2,555
特別損失合計	10,189	2,555
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	31,046	△16,208
法人税、住民税及び事業税	21,298	14,558
法人税等調整額	△1,656	△829
法人税等合計	19,642	13,728
四半期純利益又は四半期純損失(△)	11,404	△29,936
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	11,404	△29,936

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	11,404	△29,936
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△288	325
その他の包括利益合計	△288	325
四半期包括利益	11,115	△29,611
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	11,115	△29,611

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これにより、投資信託財産が金融商品である投資信託については、市場における取引価格が存在せず、かつ、解約又は買戻請求に関して市場参加者からリスクの対価を求められるほどの重要な制限がないため、基準価額を時価としております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響の考え方)

前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の拡がり方や収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他	合計
	映画事業	不動産事業	自動車教習事業	商事事業	計		
売上高							
顧客との契約から生じる利益	283,171	30,756	247,394	4,920	566,242	3,731	569,974
その他の収益	—	399,354	—	—	399,354	—	399,354
外部顧客への売上高	283,171	430,111	247,394	4,920	965,597	3,731	969,328
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	2,700	—	—	2,700	—	2,700
計	283,171	432,811	247,394	4,920	968,297	3,731	972,028
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△51,435	253,661	50,013	4,920	257,159	3,522	260,681

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	257,159
「その他」の区分の利益	3,522
セグメント間取引消去	15,740
全社費用(注)	△225,600
四半期連結損益計算書の営業利益	50,821

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。4. 報告セグメントごとの資産に関する情報  
該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他	合計
	映画事業	不動産事業	自動車教習事業	商事事業	計		
売上高							
顧客との契約から生じる利益	299,169	28,616	225,413	5,347	558,546	4,133	562,680
その他の収益	—	386,463	—	—	386,463	—	386,463
外部顧客への売上高	299,169	415,079	225,413	5,347	945,010	4,133	949,144
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	2,700	—	—	2,700	—	2,700
計	299,169	417,779	225,413	5,347	947,710	4,133	951,844
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△48,745	240,202	33,992	5,347	230,796	3,846	234,642

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	230,796
「その他」の区分の利益	3,846
セグメント間取引消去	19,113
全社費用(注)	△251,985
四半期連結損益計算書の営業利益	1,771

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## 4. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。